

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4090568号
(P4090568)

(45) 発行日 平成20年5月28日 (2008.5.28)

(24) 登録日 平成20年3月7日 (2008.3.7)

(51) Int.Cl.

F 1

A 6 1 F 13/15 (2006.01)

A 4 1 B 13/02

K

A 6 1 F 13/494 (2006.01)

A 4 1 B 13/04

A 4 1 B 13/04 (2006.01)

A 6 1 F 5/44

H

A 6 1 F 5/44 (2006.01)

請求項の数 6 (全 12 頁)

(21) 出願番号 特願平10-143440
 (22) 出願日 平成10年5月25日 (1998.5.25)
 (65) 公開番号 特開平11-332911
 (43) 公開日 平成11年12月7日 (1999.12.7)
 審査請求日 平成17年3月18日 (2005.3.18)

前置審査

(73) 特許権者 390029148
 大王製紙株式会社
 愛媛県四国中央市三島紙屋町2番60号
 (73) 特許権者 593070192
 ダイオーペーパーコンバーティング株式会
 社
 愛媛県四国中央市寒川町4765番11
 (74) 代理人 100082647
 弁理士 永井 義久
 (72) 発明者 大谷 靖
 愛媛県伊予三島市紙屋町5番1号 大王製
 紙株式会社内

審査官 渡邊 豊英

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 パンツタイプ紙おむつ

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

前身頃と後身頃との両側部を接合して、両脚周りおよび腰周りにそれぞれ開口を形成してなるパンツ形シートと、このパンツ形シートの内面に全体が固定され、股間部を中心として前後方向に延在する吸収体とを備えており、

前記吸収体は、開口を有しない透液性トップシートと不透液性バックシートとの間に吸収材を挟み込んだものであり、

前身頃の左腰脇部から前身頃の左脚周りに沿い、さらに前記吸収材の幅方向中央を横切って前身頃の右脚周りに沿い前身頃の右腰脇部まで連続するように、前記パンツ形シートを構成する複数枚の不織布間に固定された第1の弾性伸縮部材と、

後身頃の左腰脇部から後身頃の左脚周りに沿い、さらに前記吸収材の幅方向中央を横切って後身頃の右脚周りに沿い後身頃の右腰脇部まで連続するように、前記パンツ形シートを構成する複数枚の不織布間に固定された第2の弾性伸縮部材と、を備えており、

これら第1の弾性伸縮部材および第2の弾性伸縮部材によって、左脚周りおよび右脚周りの各々に脚周りギャザーが形成されたパンツタイプ紙おむつにおいて、

前記第1の弾性伸縮部材と前記第2の弾性伸縮部材とが、股間部において少なくとも2個所で交差しており、かつこれら交差個所間における前記第1の弾性伸縮部材と前記第2の弾性伸縮部材とが4cm以上離れていることを特徴とするパンツタイプ紙おむつ。

【請求項 2】

前記交差個所間における前記第1の弾性伸縮部材が前記股間部の前後方向中央部を通り、

10

20

かつ前記交差個所間における前記第 2 の弾性伸縮部材が前記前身頃における前記股間部の上側を通る請求項 1 記載のパンツタイプ紙おむつ。

【請求項 3】

前記交差個所間における前記第 1 の弾性伸縮部材が前記後身頃における前記股間部の上側を通り、かつ前記交差個所間における前記第 2 の弾性伸縮部材が前記股間部の前後方向中央部を通る請求項 1 記載のパンツタイプ紙おむつ。

【請求項 4】

前記交差個所間における前記第 1 の弾性伸縮部材が前記後身頃における前記股間部の上側を通り、かつ前記交差個所間における前記第 2 の弾性伸縮部材が前記前身頃における前記股間部の上側を通る請求項 1 記載のパンツタイプ紙おむつ。

10

【請求項 5】

前記交差個所間における前記第 1 の弾性伸縮部材および第 2 の弾性伸縮部材のいずれか一方が切断されている請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 項記載のパンツタイプ紙おむつ。

【請求項 6】

前記前身頃および後身頃の少なくとも一方の胴回りに第 3 の弾性伸縮部材が固定されている請求項 1 から 5 のいずれか 1 項記載のパンツタイプ紙おむつ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、前身頃と後身頃との両側部を接合して両脚周りおよび腰周りにそれぞれ開口を形成し、少なくとも各脚周り開口に沿って弾性伸縮部材を固定して脚周りギャザーを形成してなるパンツタイプ紙おむつに関する。

20

【0002】

【従来の技術】

一般に、この種のパンツタイプ紙おむつでは、図 10 から図 12 に示すように、実質的におむつ外形をなすパンツ形シート 101 の前身頃 101F と後身頃 101B とを両側部で接合して両脚周り 103L, 103R および腰周りにそれぞれ開口を形成し、その内面側に、不透液性バックシート 121、吸収材 122 および透液性トップシート 123 をこの順に積層してなる吸収体 120 が固定されている。

【0003】

30

また、左脚周り 103L および右脚周り 103R の各々に脚周りギャザー GL, GR (図 2 参照) を形成して横漏れ防止を図るべく、パンツ形シート 101 に対して、その前身頃 101F の左腰脇部 102FL から前身頃の左脚周り 103FL に沿い、さらに股間部 104 を横切り、前身頃の右脚周り 103FR に沿い前身頃の右腰脇部 102FR まで連続するように第 1 の弾性伸縮部材 110 (110', 110'') を固定するとともに、その後身頃 101B の左腰脇部 102BL から後身頃の左脚周り 103BL に沿い、さらに股間部 104 を横切って、後身頃の右脚周り 103BR に沿い後身頃の右腰脇部 102BR まで連続するように第 2 の弾性伸縮部材 111 (111', 111'') を固定している。一般に弾性伸縮部材は複数本並べて設けられる。

【0004】

40

かかるパンツタイプ紙おむつでは、弾性伸縮部材の配設形態が横漏れ防止性能等を左右する。したがって、従来から、様々な弾性伸縮部材の配設形態を採用したパンツタイプ紙おむつが提案されている。

【0005】

< 従来例 1 >

図 10 に示すパンツタイプ紙おむつ 100 は、第 1 の弾性伸縮部材 110 と第 2 の弾性伸縮部材 111 とが股間部 104 において 2 個所で交差する弾性伸縮部材の配設形態を採用するものである。X5, X5 は交差個所を示している。本例に該当するものとしては、特開平 3 - 82467 号公報や実登 3024357 号公報に開示のパンツタイプ紙おむつがある。

50

【 0 0 0 6 】

< 従来例 2 >

図 1 1 に示すパンツタイプ紙おむつ 1 0 0 ' は、第 1 の弾性伸縮部材 1 1 0 ' と第 2 の弾性伸縮部材 1 1 1 ' とが股間部 1 0 4 において交差ししない弾性伸縮部材の配設形態を採用するものである。本例に該当するものとしては、実登 3 0 2 4 3 5 7 号公報に開示のパンツタイプ紙おむつがある。

【 0 0 0 7 】

< 従来例 3 >

図 1 2 に示すパンツタイプ紙おむつ 1 0 0 ' ' は、第 1 の弾性伸縮部材 1 1 0 ' ' と第 2 の弾性伸縮部材 1 1 1 ' ' とを、股間部 1 0 4 において 2 個所で交差させるとともに、これら交差箇所 X 6 , X 6 間の第 1 の弾性伸縮部材 1 1 0 ' ' および第 2 の弾性伸縮部材 1 1 1 ' ' の両方を切断して形成する、弾性伸縮部材の配設形態を採用するものである。本例に該当するものとしては、特開平 6 - 1 9 7 9 2 5 号公報、特開平 6 - 2 5 4 1 1 7 号公報および特開平 6 - 3 2 7 7 1 6 号公報に開示のパンツタイプ紙おむつがある。

【 0 0 0 8 】

【 発明が解決しようとする課題 】

しかし、従来の弾性伸縮部材の配設形態を採用するパンツタイプ紙おむつには、下記に示す問題点があった。

【 0 0 0 9 】

(イ) 従来例 1 のパンツタイプ紙おむつでは、交差箇所間における第 1 の弾性伸縮部材と第 2 の弾性伸縮部材とが約 2 c m しか離れていなかったため、股間部に対して第 1 および第 2 の弾性伸縮部材の両方の収縮力が作用する結果、吸収体が幅方向に収縮するとともに、股間部だけが被着者の体側に持ち上げられていた。したがって、従来例 1 のパンツタイプ紙おむつは被着者の体に対するフィット性が悪いという問題点を有していた。

【 0 0 1 0 】

同様に、従来例 2 のパンツタイプ紙おむつでも、股間部に対して第 1 および第 2 の弾性伸縮部材の両方の収縮力が作用し、吸収体が幅方向に収縮するとともに、股間部だけが被着者の体側に持ち上げられる結果、被着者の体に対するフィット性が悪いという問題点を有していた。

【 0 0 1 1 】

一方、従来例 3 のパンツタイプ紙おむつは、第 1 および第 2 の弾性伸縮部材の両方が切断されているため、吸収体は幅方向に収縮し難いものの、股間部を被着者の体側に持ち上げる力が弱くなりすぎるため、脚周りに隙間を生じ易いという問題点があった。

【 0 0 1 2 】

そこで、本発明の主たる課題は、被着者の体に対するフィット性を向上させるとともに脚周りに隙間を生じにくくし、もって横漏れ防止性能を向上させることにある。

【 0 0 1 3 】

【 課題を解決するための手段 】

上記課題を解決した本発明のパンツタイプ紙おむつは、前身頃と後身頃との両側部を接合して、両脚周りおよび腰周りにそれぞれ開口を形成してなるパンツ形シートと、このパンツ形シートの内面に全体が固定され、股間部を中心として前後方向に延在する吸収体とを備えており、

前記吸収体は、開口を有しない透液性トップシートと不透液性バックシートとの間に吸収材を挟み込んだものであり、

前身頃の左腰脇部から前身頃の左脚周りに沿い、さらに前記吸収材の幅方向中央を横切って前身頃の右脚周りに沿い前身頃の右腰脇部まで連続するように、前記パンツ形シートを構成する複数枚の不織布間に固定された第 1 の弾性伸縮部材と、

後身頃の左腰脇部から後身頃の左脚周りに沿い、さらに前記吸収材の幅方向中央を横切って後身頃の右脚周りに沿い後身頃の右腰脇部まで連続するように、前記パンツ形シートを構成する複数枚の不織布間に固定された第 2 の弾性伸縮部材と、を備えており、

これら第1の弾性伸縮部材および第2の弾性伸縮部材によって、左脚周りおよび右脚周りの各々に脚周りギャザーが形成されたパンツタイプ紙おむつにおいて；

前記第1の弾性伸縮部材と前記第2の弾性伸縮部材とが、股間部において少なくとも2個所で交差しており、かつこれら交差個所間における前記第1の弾性伸縮部材と前記第2の弾性伸縮部材とが4cm以上離れていることを特徴とするものである。

【0014】

本発明のパンツタイプ紙おむつにおいて、前記交差個所間における前記第1の弾性伸縮部材が前記股間部の前後方向中央部を通り、かつ前記交差個所間における前記第2の弾性伸縮部材が前記前身頃における前記股間部の上側を通るように構成するのは好ましい。逆に、前記交差個所間における前記第1の弾性伸縮部材が前記後身頃における前記股間部の上側を通り、かつ前記交差個所間における前記第2の弾性伸縮部材が前記股間部の前後方向中央部を通るように構成するのも好ましい。さらに、前記交差個所間における前記第1の弾性伸縮部材が前記後身頃における前記股間部の上側を通り、かつ前記交差個所間における前記第2の弾性伸縮部材が前記前身頃における前記股間部の上側を通るように構成することもできる。

10

【0015】

また、本発明のパンツタイプ紙おむつにおいて、前記交差個所間における前記第1の弾性伸縮部材および第2の弾性伸縮部材のいずれか一方が切断されているのは好ましい。

【0016】

さらに、本発明のパンツタイプ紙おむつにおいて、前記前身頃および後身頃の少なくとも一方の胴回りに第3の弾性伸縮部材が固定されているのも好ましい。

20

【0017】

<作用1>

本発明の紙おむつは、第1の弾性伸縮部材と第2の弾性伸縮部材とを股間部において少なくとも2個所で交差させるとともに、これら交差個所間における第1の弾性伸縮部材と第2の弾性伸縮部材とを4cm以上離すことを特徴とするものである。これにより、両弾性伸縮部材の収縮力が吸収体の異なる部分に作用し、その結果吸収体の幅方向の収縮量が少なくなるとともに、吸収体が被着者の体側に均一に持ち上げられる。また、第1および第2の弾性伸縮部材が股間部において少なくとも2個所で交差しているので、第1および第2の弾性伸縮部材が脚周り全体に連続し、脚周りに隙間を生じにくい。

30

【0018】

したがって、本発明の紙おむつは、従来のものと比べて吸収体の被着者に対するフィット性が良好であり、横漏れも起こりにくいものである。

【0019】

<作用2>

本発明において、交差個所間における第1の弾性伸縮部材が股間部の前後方向中央部を通り、かつ交差個所間における第2の弾性伸縮部材が前身頃における股間部の上側を通るように構成すると、吸収体の股間部前側部分に尿受けポケットが形成される。

【0020】

<作用3>

逆に、本発明において、交差個所間における第1の弾性伸縮部材が後身頃における股間部の上側を通り、かつ交差個所間における第2の弾性伸縮部材が股間部の前後方向中央部を通るように構成すると、吸収体の股間部後側部分に便受けポケットが形成される。

40

【0021】

<作用4>

さらに、交差個所間における第1の弾性伸縮部材が後身頃における股間部の上側を通り、かつ交差個所間における第2の弾性伸縮部材が前身頃における股間部の上側を通るように構成すると、吸収体の股間部に尿受けおよび便受けポケットが形成される。

【0022】

<作用5>

50

本発明において、交差個所間における第１の弾性伸縮部材および第２の弾性伸縮部材のいずれか一方が切断されていると、吸収体に作用する幅方向の収縮力が半分になるとともに、切断されていないほうの弾性伸縮部材が吸収体を被着者の体側に持ち上げるように作用する。よって、吸収体の被着者に対するフィット性が向上する。また交差個所間で切断しているので脚周りにおける弾性伸縮部材の連続性も失われない。

【００２３】

<作用６>

前身頃および後身頃の少なくとも一方の胴回りに第３の弾性伸縮部材が固定されているパンツタイプ紙おむつに本発明を適用した場合、第１の弾性伸縮部材および／または第２の弾性伸縮部材と第３の弾性伸縮部材との距離が従来よりも短くなる。その結果、第１の弾性伸縮部材および／または第２の弾性伸縮部材の収縮力と、第３の弾性伸縮部材とが相反するように作用し、前身頃および／または後身頃が均一に被着者の体側に押し付けられるようになる。

【００２４】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態を添付図面を参照しつつ詳述する。

図１は本発明に係るパンツタイプ紙おむつ例Ｐ１の展開状態を示し、図２はパンツタイプ紙おむつＰ１の正面を示し、図３はその底面を示している。すなわち、本例の紙おむつＰ１は、パンツ形シート１と、このパンツ形シート１内面に全体が固定され、股間部４を中心として前後方向に延在する吸収体２０とで構成され、パンツ形シート１の両側部を接合して両脚周り３Ｌ、３Ｒおよび腰周り３０にそれぞれ被着者の脚および腰が通される開口が形成されてなるものである。Ｔは、使用後において紙おむつＰ１を丸めて止めつけるための後処理テープを示しており、通常は後身頃の胴周り４０Ｂ外面の幅方向中央に設けられる。

【００２５】

吸収体２０は従来のもと同様であり、不織布などからなり着用者の肌に直接触れる透液性トップシート２３と、ポリエチレンなどのプラスチックフィルムや撥水処理を施した不織布などからなる不透液性バックシート２１との間に、綿状パルプを主体とし必要によりこれを吸収紙で包んだ吸収材２２を挟み込み、周縁部分を例えばホットメルト接着剤等により接着して形成することができる。

【００２６】

パンツ形シート１は複数枚の不織布を積層固定してなり、それらの間に、前身頃１Ｆの左腰脇部２ＦＬから前身頃の左脚周り３ＦＬに沿い、さらに幅方向中央を横切って前身頃の右脚周り３ＦＲに沿い前身頃の右腰脇部２ＦＲまで連続するように第１の弾性伸縮部材１０が挟まれ固定されるとともに、後身頃１Ｂの左腰脇部２ＢＬから後身頃の左脚周り３ＢＬに沿い、さらに幅方向中央を横切って後身頃の右脚周り３ＢＲに沿い後身頃の右腰脇部２ＢＲまで連続する第２の弾性伸縮部材１１が挟まれ固定されたものである。これら第１および第２の弾性伸縮部材１０、１１により左脚周り３Ｌおよび右脚周り３Ｒのそれぞれに脚周りギャザーＧＬ、ＧＲが形成される。

【００２７】

特に本例の紙おむつＰ１では、第１の弾性伸縮部材１０と第２の弾性伸縮部材１１とが股間部４において２個所で交差しており、かつこれら交差個所間における第１の弾性伸縮部材１０と第２の弾性伸縮部材１１とが４ｃｍ以上（好ましくは６ｃｍ以上）離されている。好適には、図示のように交差個所間における第１の弾性伸縮部材１０が股間部４の前後方向中央部を通り、かつ交差個所間における第２の弾性伸縮部材１１が、前身頃１Ｆにおける股間部４の上側を通るように固定される。

【００２８】

また、本例の紙おむつＰ１では、前身頃１Ｆの腰周り３０Ｆに沿って一方の側端部から他方の側端部まで連続する腰前周り弾性伸縮部材３１Ｆが固定され、後身頃１Ｂの腰周り３０Ｂに沿って一方の側端部から他方の側端部まで連続する腰後周り弾性伸縮部材３１Ｂ

が固定されており、これら腰前周りおよび腰後周り弾性伸縮部材 3 1 F , 3 1 B により腰周り 3 0 に腰周りギャザー 3 2 が形成される。

【 0 0 2 9 】

さらに、本例の紙おむつ P 1 では、前身頃 1 F の胴回り（下腹部周り）4 0 F に一方の側端部から他方の側端部まで連続する胴前周り弾性伸縮部材 4 1 F が固定され、後身頃 1 B の胴回り 4 0 B に一方の側端部から他方の側端部まで連続する胴後周り弾性伸縮部材 4 1 B が固定されており、これら胴前周りおよび胴後周り弾性伸縮部材 4 1 F , 4 1 B により胴周り 4 0 に胴周りギャザー（図示せず）が形成される。なお、本発明にいう第 3 の弾性伸縮部材とは、これら胴前周り弾性伸縮部材 4 1 F および胴後周り弾性伸縮部材 4 1 B をいう。

10

【 0 0 3 0 】

かかる弾性伸縮部材の配設形態の利点は次述のとおりである。

（イ）第 1 および第 2 の弾性伸縮部材 1 0 , 1 1 が交差個所 X 1 , X 1 間において 4 c m 以上離れていると、その交差個所 X 1 , X 1 間における両弾性伸縮部材 1 0 , 1 1 の収縮力が吸収体 2 0 の異なる部分にも作用し、それによって吸収体 2 0 の幅方向の収縮量を少なくするとともに、吸収体 2 0 を被着者の体側に均一に持ち上げることができるようになる。また、第 1 および第 2 の弾性伸縮部材 1 0 , 1 1 が股間部 4 において 2 個所で交差しているので、第 1 および第 2 の弾性伸縮部材 1 0 , 1 1 が脚周り 3 L , 3 R に全体に連続し、もって被着者の太股脚周り 3 L , 3 R に隙間を生じさせにくくなる。したがって、本例の紙おむつは、従来のものと比べて吸収体の被着者に対するフィット性が良好であり、横漏れも起こりにくいものである。

20

【 0 0 3 1 】

（ロ）特に、交差個所間における第 2 の弾性伸縮部材 1 1 が、前身頃 1 F における股間部 4 の上側を通るように固定されていると、この第 2 の弾性伸縮部材 1 1 と前身頃の胴周り 4 0 F に固定された胴前周り弾性伸縮部材 4 1 F との距離が縮まる。その結果、第 2 の弾性伸縮部材 1 1 の下方への収縮力と胴前周り弾性伸縮部材 4 1 F の上方への収縮力とにより、前身頃 1 F の全体が均一に被着者側に押し付けられるようになる。

【 0 0 3 2 】

（ハ）図示例のように、交差個所間における第 1 の弾性伸縮部材 1 0 が股間部 4 の前後方向中央部を通り、かつ交差個所間における第 2 の弾性伸縮部材 1 1 が、前身頃 1 F における股間部 4 の上側を通るように固定されていると、交差個所間における第 1 および第 2 弾性伸縮部材 1 0 , 1 1 間において吸収体 2 0 の幅方向中央部分が外側に膨らむことにより、股間部 4 前側に尿受けポケット B 1 が形成される。

30

【 0 0 3 3 】

なお、第 1 ～第 6 の弾性伸縮部材 1 0 , 1 1 , 3 1 F , 3 1 B , 4 1 F , 4 1 B は通常図示のように複数本（3、4 本）並べて設けるが、一本であっても良い。また第 1 および第 2 の弾性伸縮部材 1 0 , 1 1 としては適宜の太さおよび断面形状を有する天然ゴム系や合成ゴム系を使用できる。

【 0 0 3 4 】

< 変形例 1 >

40

上記例の紙おむつ P 1 は、第 1 の弾性伸縮部材 1 0 および第 2 の伸縮部材 1 1 が両方ともに連続する態様を採用するものであるが、交差個所 X 1 , X 1 間において股間部の前後方向中央を横切る第 1 の弾性伸縮部材 1 0 のみが切断されている態様を採用することもできる。図示しないが、交差個所間における第 2 の弾性伸縮部材 1 1 のみを切断することもできる。前者の例を図 4 および図 5 に示した。P 2 は本変形例 1 に係るパンツタイプ紙おむつを示し、1 0 L が左側の第 1 の弾性伸縮部材を示し、1 0 R が右側の第 1 の弾性伸縮部材を示し、X 2、X 2 は交差個所を示し、B 2 は尿受けポケットを示している。

【 0 0 3 5 】

この場合、吸収体 2 0 の股間部分に作用する幅方向の収縮力が半分になるとともに、切断されていないほうの第 2 の弾性伸縮部材 1 1 が吸収体 2 0 を被着者の体側に持ち上げる

50

ように作用する。よって、吸収体 20 の被着者に対するフィット性が向上する。また左側の第 1 の弾性伸縮部材 10 L および右側の第 1 の弾性伸縮部材 10 R はそれぞれ第 2 の弾性伸縮部材 11 とそれぞれ交差しているので、脚周り 3 L , 3 R における弾性伸縮部材の連続性も失われない。

【0036】

< 変形例 2 >

上記紙おむつ例 P 1 では、交差個所 X 1 , X 1 間における第 1 の弾性伸縮部材 10 が股間部 4 の前後方向中央部を通り、かつ交差個所 X 1 , X 1 間における第 2 の弾性伸縮部材 11 が、前身頃 1 F における股間部 4 の上側を通るように固定されている。上記変形例 1 も同様である。しかし、逆に図 6 および図 7 に示すパンツタイプ紙おむつ P 3 のように、交差個所 X 3 , X 3 間における第 1 の弾性伸縮部材 14 が後身頃 1 B における股間部 4 の上側を通り、かつ交差個所 X 3 , X 3 間における第 2 の弾性伸縮部材 15 が股間部 4 の前後方向中央部を通るようにすることもできる。これにより、交差個所 X 3 , X 3 間における第 1 および第 2 弾性伸縮部材 14 , 15 間において吸収体 20 の幅方向中央部分が外側に膨らむことにより、吸収体 20 の股間部 4 後側に便受けポケット B 3 が形成される。

【0037】

この場合において、交差個所 X 3 , X 3 間における第 1 の弾性伸縮部材 14 および第 2 の弾性伸縮部材 15 のいずれか一方を切断することもできる。

【0038】

< 変形例 3 >

さらに、図 8 および図 9 に示すパンツタイプ紙おむつ P 4 のように、交差個所 X 4 , X 4 間における第 1 の弾性伸縮部材 16 が後身頃 1 F における股間部 4 の上側を通り、かつ交差個所 X 4 , X 4 間における第 2 の弾性伸縮部材 17 が前身頃 1 F における股間部 4 の上側を通るようにすることもできる。これにより、交差個所 X 4 , X 4 間における第 1 および第 2 弾性伸縮部材 16 , 17 間において吸収体 20 の幅方向中央部分が外側に膨らむことにより、吸収体 20 の股間部分に尿受けおよび便受けポケット B 4 が形成される。

【0039】

特に本例では、第 2 の弾性伸縮部材 17 と前身頃の胴周り 40 F に固定された胴前周り弾性伸縮部材 41 F との距離が縮まるため、第 2 の弾性伸縮部材 17 の下方への収縮力と胴前周り弾性伸縮部材 41 F の上方への収縮力とにより前身頃 1 F の全体が均一に被着者側に押し付けられるだけでなく、第 1 の弾性伸縮部材 16 と後身頃の胴周り 40 B に固定された胴後周り弾性伸縮部材 41 B との距離も縮まるため、第 1 の弾性伸縮部材 16 の下方への収縮力と胴後周り弾性伸縮部材 41 B の上方への収縮力とにより、後身頃 1 B の全体も均一に被着者側に押し付けられるようになる。

【0040】

この場合にも、交差個所 X 4 , X 4 間における第 1 の弾性伸縮部材 16 および第 2 の弾性伸縮部材 17 のいずれか一方を切断することができる。

【0041】

【発明の効果】

以上の通り、本発明によれば吸収体のフィット性が向上するとともに、脚周りに隙間が生じにくくなり、また横漏れ防止性能が向上する等の利点がもたらされる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明に係るパンツタイプ紙おむつ例の展開図である。

【図 2】 本発明に係るパンツタイプ紙おむつの正面図である。

【図 3】 その底面図である。

【図 4】 変形例 1 に係るパンツタイプ紙おむつ例の展開図である。

【図 5】 その下面図である。

【図 6】 変形例 2 に係るパンツタイプ紙おむつ例の展開図である。

【図 7】 その下面図である。

【図 8】 変形例 3 に係るパンツタイプ紙おむつ例の展開図である。

【図 9】 その下面図である。

【図 10】 従来例 1 に係るパンツタイプ紙おむつの展開図である。

【図 11】 従来例 2 に係るパンツタイプ紙おむつの展開図である。

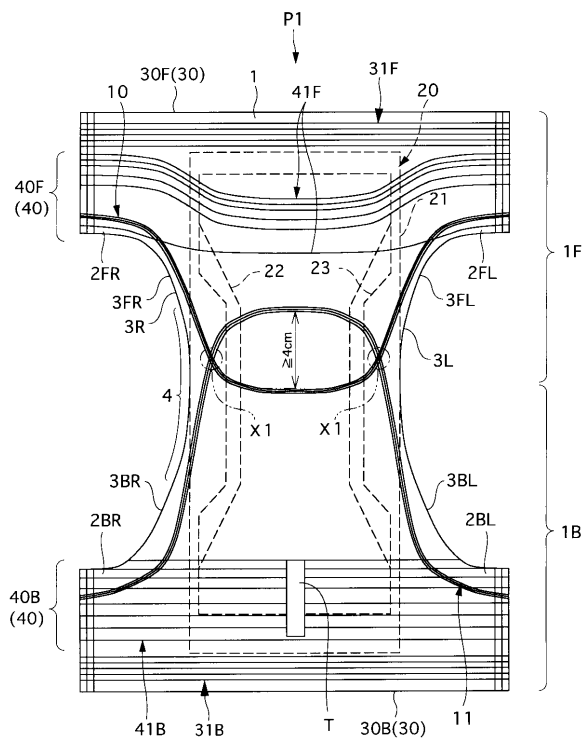
【図 12】 従来例 3 に係るパンツタイプ紙おむつの展開図である。

【符号の説明】

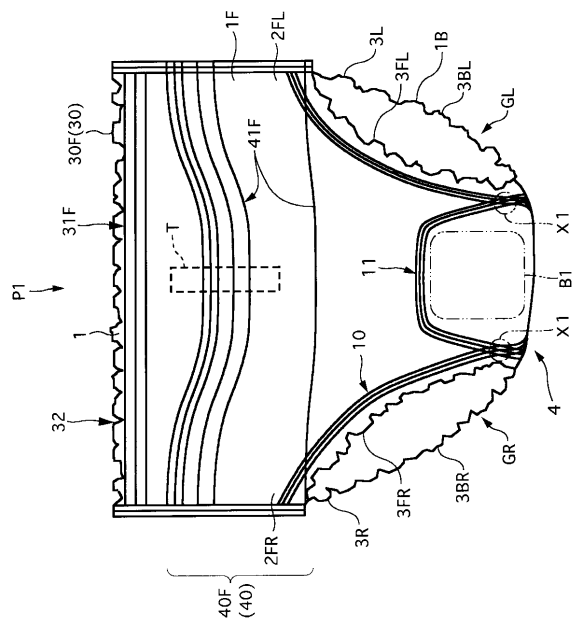
P 1 ~ P 4 ... パンツタイプ紙おむつ、1 ... パンツ形シート、1 F ... 前身頃、1 B ... 後身頃、2 F L ... 前身頃の左腰脇部、2 F R ... 前身頃の右腰脇部、2 B L ... 後身頃の左腰脇部、2 B R ... 後身頃の右腰脇部、3 L ... 左脚周り、3 R ... 右脚周り、3 F L ... 前身頃の左脚周り、3 F R ... 前身頃の右脚周り、3 B L ... 後身頃の左脚周り、3 B R ... 後身頃の右脚周り、4 ... 股間部、1 0 ... 第 1 の弾性伸縮部材、1 1 ... 第 2 の弾性伸縮部材、2 0 ... 吸収体、2 1 ... 不透液性バックシート、2 2 ... 吸収材、2 3 ... 透液性トップシート、G L ... 左脚周りギャザー、G R ... 右脚周りギャザー、X 1 , X 1 ... 交差個所。

10

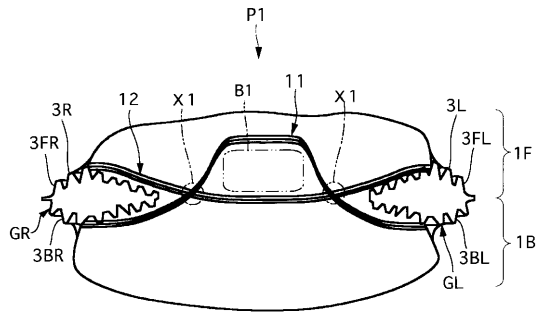
【図 1】



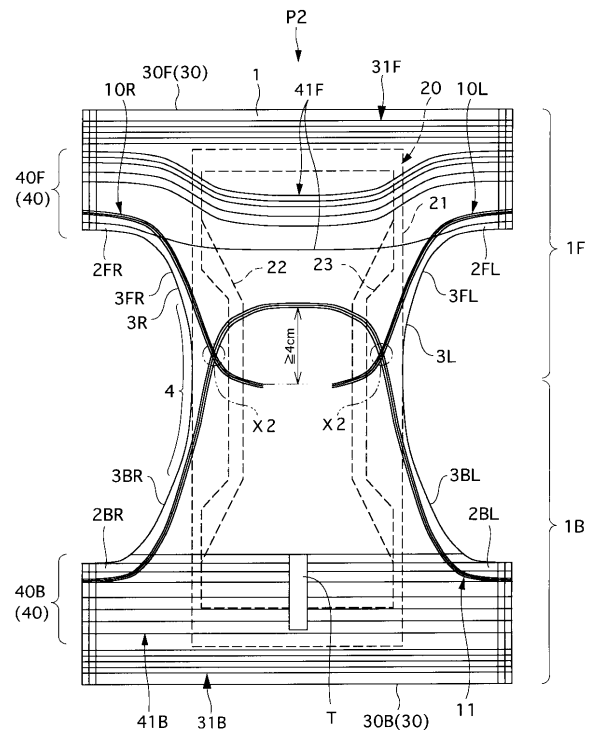
【図 2】



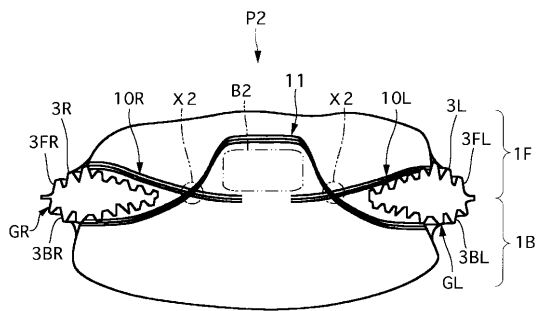
【図 3】



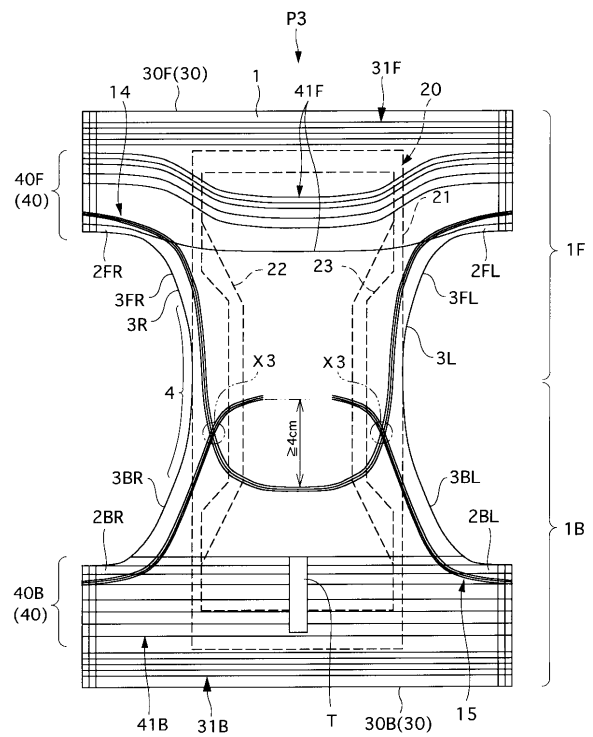
【図 4】



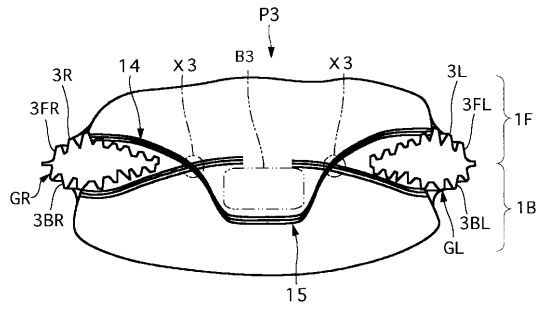
【図 5】



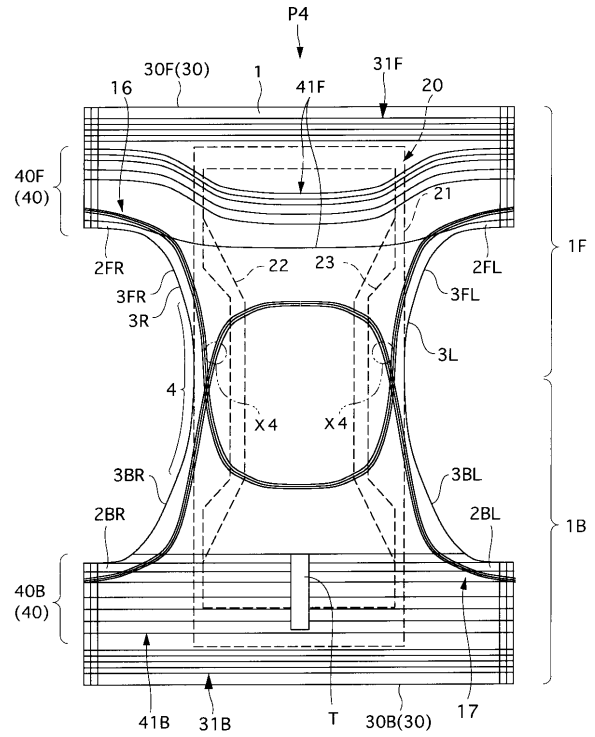
【図 6】



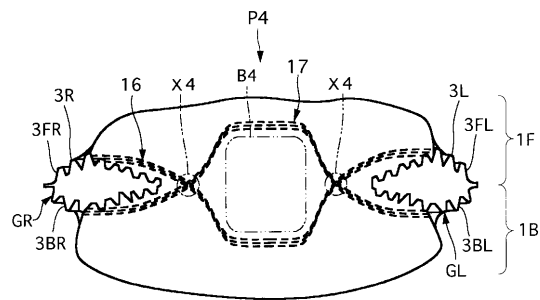
【図 7】



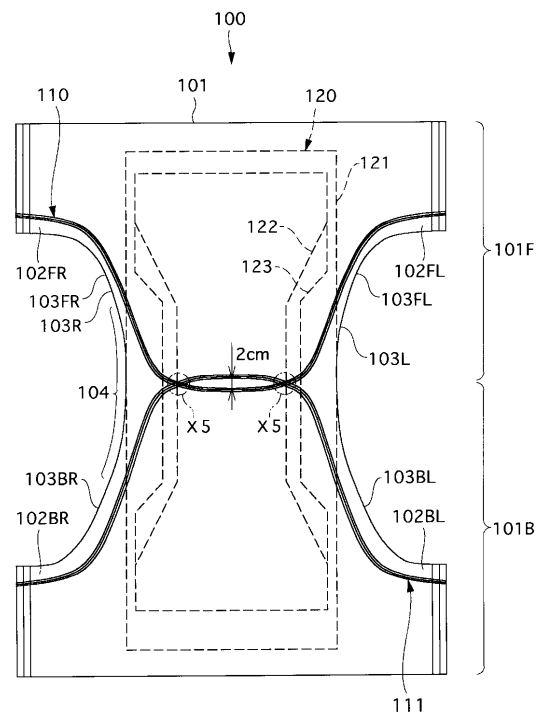
【図 8】



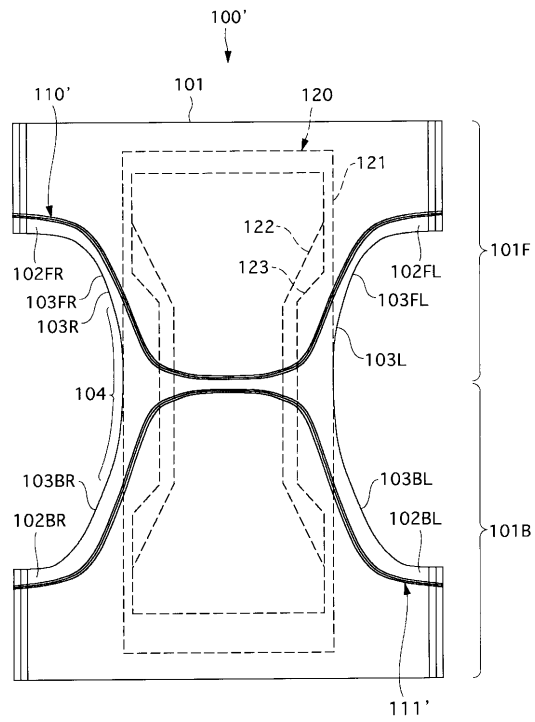
【図 9】



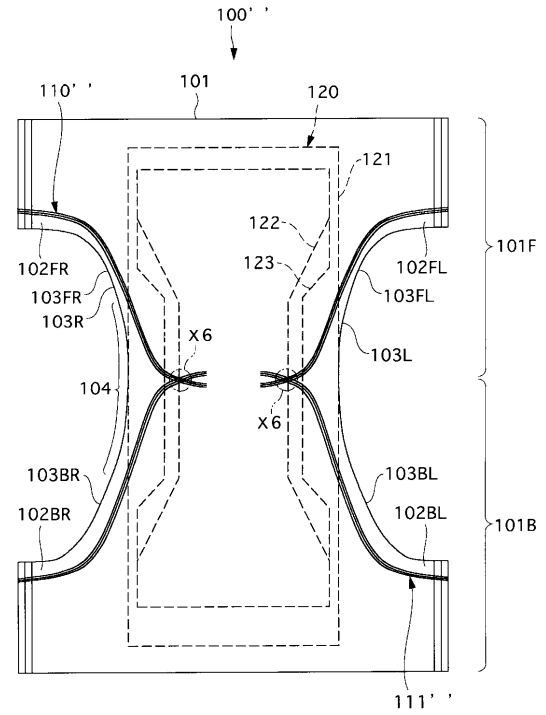
【図 10】



【図 11】



【図 12】



フロントページの続き

- (56)参考文献 特開平 0 6 - 3 2 7 7 1 5 (J P , A)
登録実用新案第 3 0 2 4 3 5 7 (J P , U)
特開平 1 0 - 1 1 8 1 1 9 (J P , A)
特開平 0 8 - 2 8 0 7 3 8 (J P , A)
特開平 0 5 - 0 1 5 5 5 2 (J P , A)
特開平 1 0 - 0 8 0 4 4 3 (J P , A)

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)

A61F 13/00-13/84,
A61F 5/44,
A41B 13/04